Kumamoto for SDGs

SDGｓ推進に関する連携協定について

熊本日日新聞 × 熊本市 Kumamoto City

令和４年３月18日

1　連携協定の経緯、目的

○熊本日日新聞社から創立80周年を契機とし、更にSDGsを推進するため、熊本市に対し連携協定締結の申し入れがあった。
○2030年までにSDGsを達成するためには、多様なステークホルダーが連携協力して社会課題の解決に取り組む必要がある。
○そこで、双方の強みや特性を活かし、熊本におけるSDGsの機運を醸成するとともに、一体となって実践するため連携協定を締結するもの。

熊本日日新聞社の取組

熊本日日新聞社は、熊本の「企業と人」の取り組みを応援するため「くまにちSDGsアクションプロジェクト」などに取り組んでいる。

熊本市の取組

熊本市は、令和元年度に「SDGs未来都市」に選定され、自治体SDGsモデル事業をはじめ地下水保全などに取り組んでいる。

相乗効果

連携事業

Kumamoto for SDGs

【参考】これまでの熊本日日新聞社との連携協定

熊本都市圏における産業の振興、地域課題の解決等に向けた包括連携協定

【締結日】 令和元年（2019年）11月11日
【相手方】 株式会社　熊本日日新聞社
【概要】　1「びぷれすイノベーションスタジオ」を活用した官民連携による産業の振興及び地域課題の解決に関すること
2 雇用創出や人材育成、ネットワークづくりに資する取り組みに関すること
3 その他必要と認めること

熊本の地域コミュニティ構築とイノベーション創発に向けた包括連携協定

【締結日】 令和元年（2019年）12月26日
【相手方】 株式会社　熊本日日新聞社、一般社団法人　SCBラボ、学校法人　君が淵学園
株式会社　Zero-Ten Park、熊本県
【概要】　地域コミュニティの構築、イノベーションの創発等に取り組み、地方創生の推進を図る。

熊本地震からの復旧を含めた熊本城の歴史記録協定

【締結日】 平成29年（2017年）6月
【相手方】 株式会社　熊本日日新聞社
【概要】　熊本城の歴史と復旧の過程を、20年間にわたって記録し後世に残す。

2　これまでの取組

○これまでは、それぞれがSDGｓの達成に向け、市民を巻き込みながら取組を進めてきた。

熊本日日新聞社の取組

1　くまにちSDGsアクションプロジェクト

熊本、日本、世界の明日をより良くしていくためのプロジェクト。SDGs推進を支える取り組みや、SDGsに関するノウハウを共有することでの人材の育成につなげる。

また、県内のSDGs推進の機運を高める取り組みなどを通じて、熊本からSDGsの波を広げていく。県民参加のもと、「実践的」にSDGs達成に向けて取り組んでいく。

2　地域・社会への取り組み

○熊日ほっとネットワーク

県内125の熊日販売センターが、配達業務中などに管内の異変を感じた際に、関係各所へ連絡し、地域の安全を図る活動。毎年、「ポストに数日分新聞がたまっていることを不審に思い、警察へ連絡。中で住人が倒れており、一命をとりとめた」「徘徊する高齢者を確保した」などの事例が上がっている。

○こども安全ステーション

ほっとネットワークの一環として、子どもの避難場所として熊日販売センターを提供。

○熊本見守り応援隊

県、県警、県福祉協議会、県民生委員児童委員協議会と「熊本見守り応援隊」協定を締結し、「熊本見守り応援隊」の第1号として、一人暮らしの高齢者や子どもたちが安心して地域で生活できるよう見守り活動を実施。

○熊日ふれあい地域塾

町内会や老人会、子ども会など地域の団体とともにスポーツ大会やコンクールなどさまざまなイベントを開催。

○ミニコミ紙

各販売センターが独自に企画編集している地域の話題がいっぱいのミニコミ紙を発行。
※一部発行していない販売センターあり。

熊本市の取組

1　自治体SDGｓモデル事業

ごみ焼却施設で発電した電力を、市の施設に供給し、電気料金を削減。この削減されたお金をもとに、家庭や企業が省エネルギー機器を導入する際の補助を実施。災害時には電気自動車、ＥＶを「動く蓄電池」として避難所に派遣し、電気を供給する仕組みなどを構築し、災害に強いまちづくりを推進している。

2　市民、企業への普及啓発

○出前講座

学校や企業等を対象とし、SDGｓに関する出前講座を実施。

○成人式におけるキックオフ宣言

成人式とタイアップして、新成人によるSDGｓキックオフ宣言を実施。

○企業向けフォローアップセミナー

県SDGｓ登録制度の登録企業等を対象とし、ＳＤＧｓ経営に関するセミナーを開催。

○フェアトレードの推進

フェアトレードシティとして、様々なステークホルダーと連携し、普及啓発と情報発信を実施。

3　ESDの推進

ＥＳＤの研究モデル校・園の実践を通して、各校のＥＳＤへの取組をさらに充実させ、持続可能な社会のつくり手として必要な資質能力の育成を推進。

4　フードドライブ

コロナ禍により生活に困窮している大学生等の生活を支援するとともに、フードロスを削減するため、民間企業等と連携して、フードドライブを実施。

３　連携項目

○本協定を契機とし、これまでの社会課題解決に資する取組を以下の項目に位置付けるとともに、2030年までのSDGｓの達成に向けて、更に拡充、もしくは新たな事業に取り組む。

（１）SDGsの普及啓発に関すること【広げる】

新聞やホームページなど広報媒体を相互活用し、SDGsの普及啓発に取り組む。

（２）教育・人材育成に関すること　【育てる】

SDGsに関する講座を学校や企業、地域で開催し、ESD及び社会人教育に取り組む。

（３）安全安心な地域づくりに関すること【育てる・支える】

販売店等のネットワークを活用し、地域の見守りや地域防災をはじめとした安全安心な地域づくりに取り組む。

（４）企業、団体等の実践支援に関すること【支える】

熊本県SDGs登録企業等への研修開催や企業間の交流を通し、企業等におけるSDGs経営を支援する。

（５）その他、持続可能な地域社会の形成に関すること

フードロス削減や農水産物の地産地消の推進、脱炭素社会に向けた普及啓発を通し、循環型社会の形成などに取り組む。

（１）SDGsの普及啓発に関すること

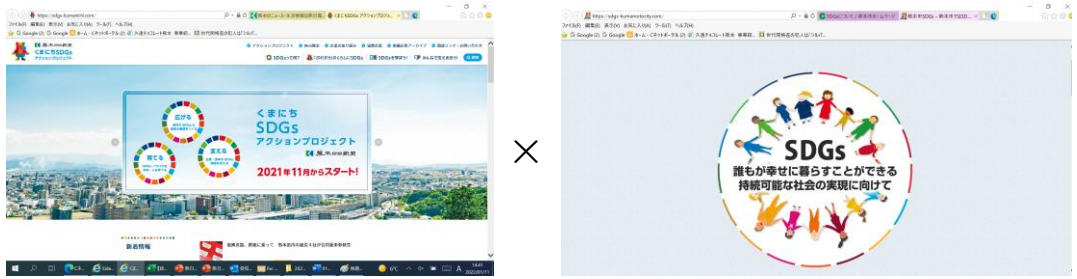
新聞やホームページなど広報媒体を相互活用し、SDGsの普及啓発に取り組む。
「SDGs」を知っている熊本市民の割合を、2023年までに50%、2030年までに80%を目指す。

①新聞記事等による情報発信【拡充】

脱炭素に関する取組やエシカル消費などのSDGsに関する情報を新聞・すぱいす等で発信し、住民や企業等へのSDGsの普及啓発を図る。

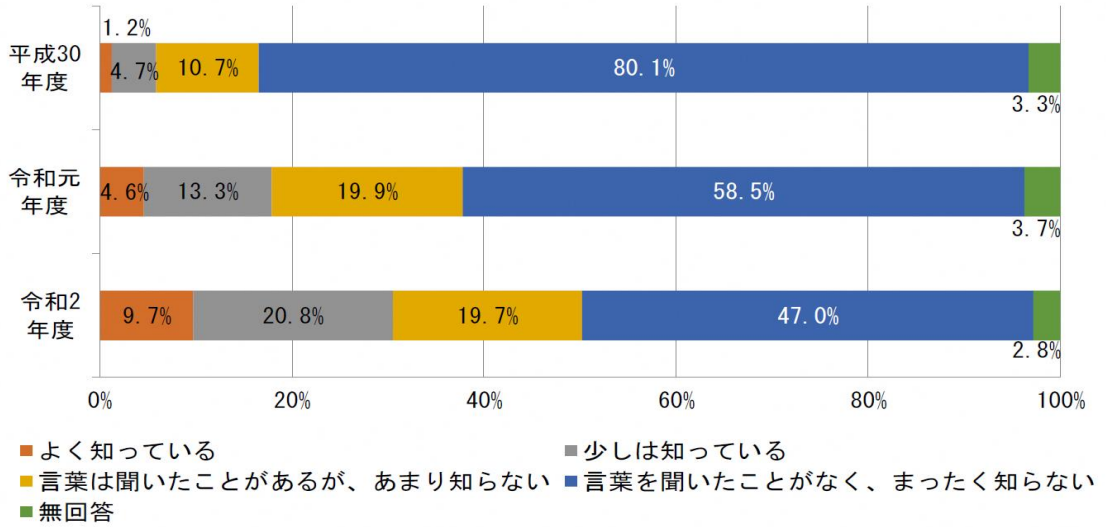
②ホームページの連携【新規】

市及び熊本日日新聞の特設ホームページ間で、記事のリンク共有を行う。



SDGsの普及啓発に関するKPI

	単位	基準値	検証値	
		2018	2023	2030
「ＳＤＧｓ」を知っている市民の割合	%	5.9	50	80



出所：熊本市環境総合計画に関する市民アンケート

（２）教育・人材育成に関すること

SDGsに関する講座等を学校や地域、団体で開催し、ESD及び社会人教育を推進する。
熊本市内小中学校において、出前授業の実施回数を2023年までに10回、2030年までに80回を目指す。

①学校における出前授業の実施【新規】

キャリア教育の一環として、新聞社の仕事について記者やカメラマン、編集長などが、小中学校において授業や講話を行う。

②ナイストライ事業【拡充】

本市で中学２年生を対象に実施している職場体験を熊本日日新聞社及び販売店にて受け入れる。

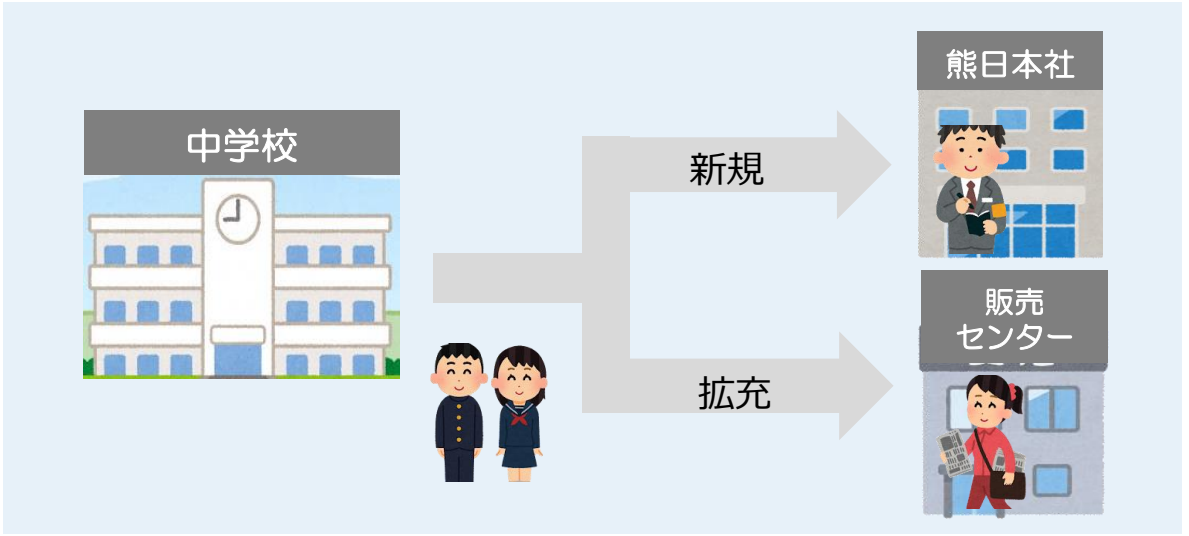
③地域や団体における出前講座の実施【新規】

地域や団体における出前講座等を実施し、社会人教育を推進する。

教育・人材育成に関するKPI

	単位	基準値	検証値	
		2021	2023	2030
出前授業の実施回数	回数	0	10	80

〔ナイストライ事業のイメージ〕



（３）安全安心な地域づくりに関すること

販売センター等のネットワークを活用し、地域防災や地域の見守り支援、子ども食堂等への支援などの安全安心な地域づくりを推進する。
フードドライブの拠点とする販売センターを、市内で2023年までに１箇所、2030年までに30箇所を目指す。

①防災・減災に関する支援【拡充】

地域版ハザードマップや地区防災計画などの防災・減災に関する情報について、地域に根ざした各販売店等の視点で情報発信し、地域防災力の強化を推進する。

②地域の見守り支援【拡充】

新聞の配達時などに、高齢者や子どもたち等の異変や虐待の疑い、不審者に気づいた場合に、関係機関に通報を行うなど、連携して地域の見守りを行う。

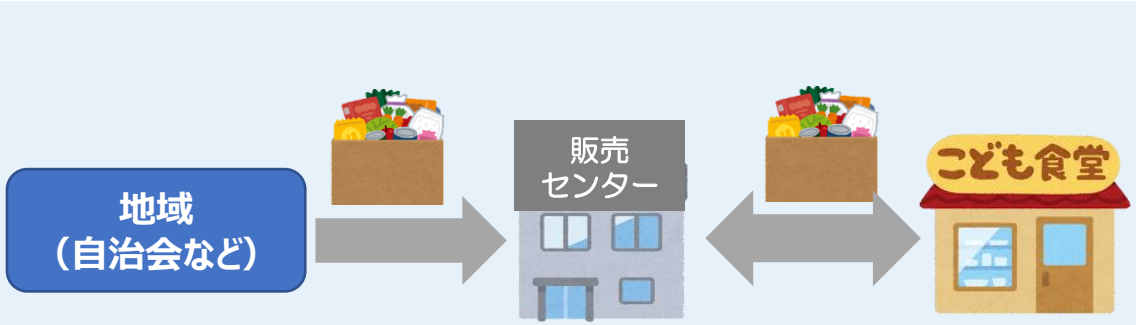
③子ども食堂等への支援【新規】

市内の販売センターをフードドライブの拠点とし、子ども食堂等への未使用の食品提供などの支援を行う。

安全安心な地域づくりに関するKPI

	単位	基準値	検証値	
		2021	2023	2030
フードドライブの拠点となる販売センター数	箇所	0	1	30

〔子ども食堂等への支援〕



地域の自治会等から販売センターへ未使用の食品等を提供・保管

販売センターを拠点として、子ども食堂等に提供

（４）企業、団体等の実践支援に関すること

熊本県SDGs登録企業等への研修や企業間の交流を通し、SDGs経営を支援する。
熊本県SDGs登録制度を2023年までに850団体、2030年までに1,700団体を目指す。

①「（仮称）熊本連携中枢都市圏SDGsプラットフォーム」の構築【新規】

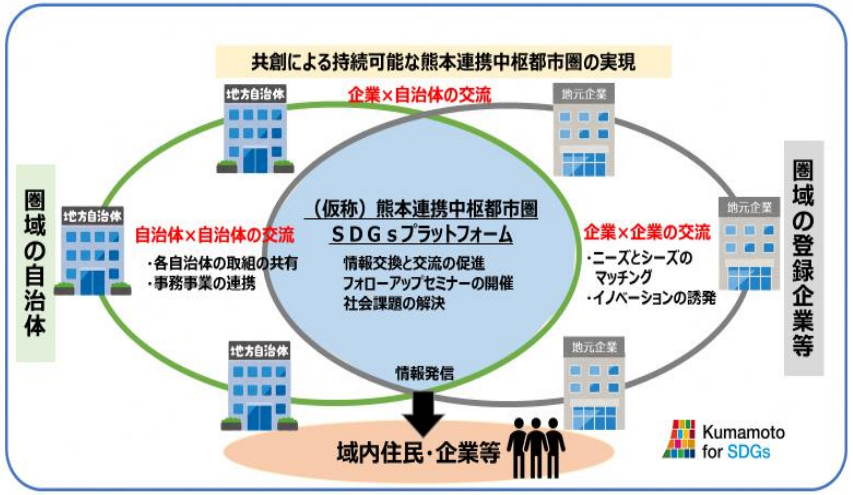
「（仮称）熊本連携中枢都市圏SDGsプラットフォーム」を立ち上げ、「くまにちSDGsアクションプロジェクト」サポーター企業等の交流を促進する。

② 企業向けフォローアップセミナーの開催【新規】

登録企業等向けのフォローアップセミナーにおいて、社会経済情勢の知見を有する新聞記者等が、研修を行い、企業のSDGｓの取組を促進する。

企業等の取組支援に関するKPI

	単位	基準値	検証値	
		2021	2023	2030
「熊本県SDGs登録制度」登録団体数（市内）	団体	593	850	1700



（５）その他、持続可能な地域社会の形成に関すること

フードドライブによるフードロス削減や農水産物の地産地消の推進、脱炭素社会に向けた普及啓発を通し、循環型社会の形成及び環境保全など地域課題の解決に取り組む。

①フードドライブ等の実施【拡充】

フードドライブ等の取組を通して、新型コロナウイルス感染症等により生活に困窮している方を支援するとともに、フードロスの削減を図る。

②地産地消の推進【新規】

農水産物の地産地消を推進することで、フードマイレージ削減による環境保全を図るとともに、地域経済の活性化を図る。

③脱炭素社会に向けた普及啓発【拡充】

地球温暖化対策に関する情報を新聞・すぱいす等で発信し、住民や企業等への脱炭素化の普及啓発を図る。

持続可能な地域社会の形成と環境保全に関するKPI

	単位	基準値	検証値	
		2000	2023	2030
食品ロス発生量	t/年	57,326	35,350	28,663 以下

〔フードドライブの実績〕

日　時：令和3年6月11日

後援等：熊本日日新聞社、熊本大学、
大学コンソーシアム熊本、
フードバンク熊本、
地方経済総合研究所、肥後銀行

配布物品：食品及びその他日用品　約1.5トン